

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

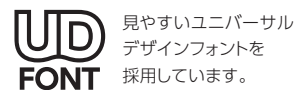
【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。 (当社ホームページURL http://www.manac-inc.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載する方法で行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部



〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
TEL.084-954-3330 FAX.084-957-4370
<http://www.manac-inc.co.jp/>



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

第71期のご報告 株主通信

2015年4月1日▶2016年3月31日



証券コード：4364

マナックは、化学をベースに、
技術と知識の融合により先端技術産業が
求める機能を開発・提供する

研究開発型モノづくり会社です。



ごあいさつ

第71期の株主通信をお届けするにあたり、株主様をはじめとする関係者の皆様の日ごろのご支援とご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

また、本年4月に発生しました熊本地震により被災されました皆様には、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

マナックのルーツは、江戸時代から瀬戸内海で行われていた製塩業にさかのぼります。1948年(昭和23年)の設立以来、地元の美しい海から生まれた技術を進化させ、医療分野やIT分野をはじめとする先端技術産業からの「高度なニーズ・潜在的なニーズ」にお応えすべく製品開発を進めております。

そしていま、マナックは「社会的存在価値のある製品を提供し続ける」という信念のもと、国内のみならずグローバルマーケットを目指して、臭素化・ヨウ素化のコアテクノロジーをもってさらなる技術革新に挑み、高機能製品・高付加価値製品の提案を通じてスペシャリティーケミカルの可能性を追求してまいります。



代表取締役社長 杉之原 祥二

企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

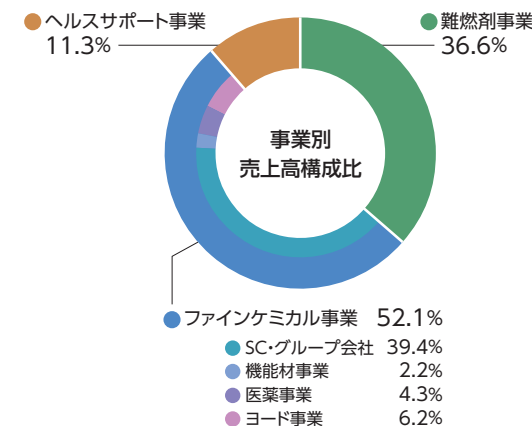
経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会から注目される会社をめざし、常に『革新』

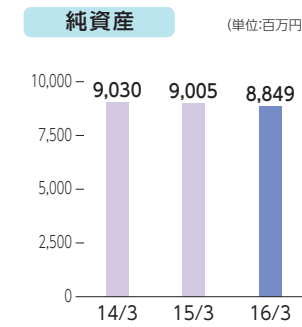
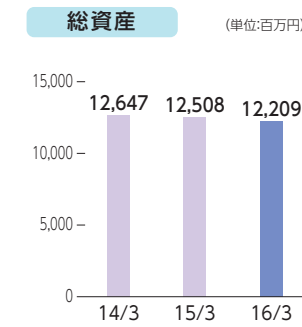
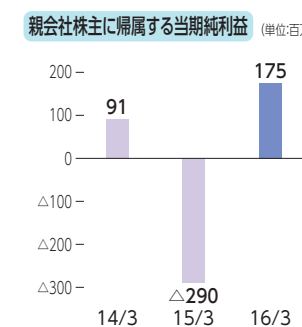
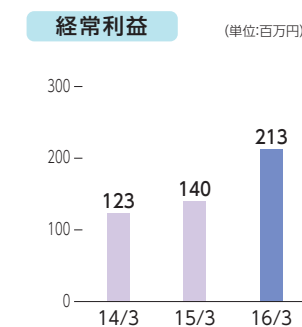
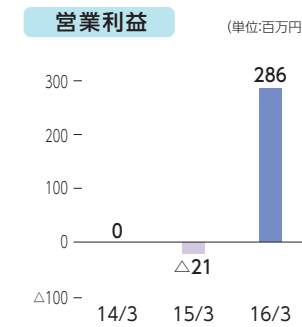
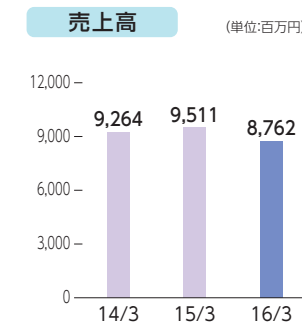
事業の概況

第71期の当社グループの売上高は、8,762百万円(前期比△749百万円)となりました。利益面では、採算是正及びコストダウン等による収益性改善に努めたこと、連結子会社の採算性が大幅に改善したことにより、前期比で増加いたしました。この結果、営業利益は286百万円(前期は営業損失21百万円)、経常利益は213百万円(前期比+73百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は175百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失290百万円)となりました。

セグメント別では、ファインケミカル事業の売上高は、4,566百万円(前期比△540百万円)、難燃剤事業の売上高は3,211百万円(同△16百万円)、ヘルスサポート事業の売上高は985百万円(同△192百万円)となりました。



連結財務ハイライト



ニッチマーケットを積極的に開拓

高い技術力と品質保証を強みに世界市場へ。
市場動向に即応した事業活動を展開します。

2016年3月期の締めくくりにあたり、この1年間の業績を振り返るとともに、中国現地法人設立やグローバル戦略など、今後の取組みや方針についてお伝えします。



Q1 2016年3月期の概況についてお聞かせください。

A 当期の世界経済は、中国をはじめとする新興国経済の低迷や欧州・中東の地政学的リスクの高まりで先行き不透明感が増していますが、米国を中心とした先進諸国の需要が堅調なことに支えられ、全体的に底堅く推移しました。日本経済も企業業績や雇用・所得環境の改善や来日外国人によるインバウンド消費の拡大により、緩やかな回復基調が継続しました。

しかしながら、当社のお取引先であるメーカー各社様には業況判断に一部慎重さが見られ、新規製品の開発や市場投入時期の遅れなどが見られました。

また、当社の収益パターンは下期挽回型ですが、当期は下期にあまり売上高が伸びなかったことから、売上高で前期比7.9%減となり、期初の目標値を若干下回る結果となりました。

Q2 ファインケミカル事業の状況はいかがでしたか。

A ファインケミカル事業全体では売上高で前期比10.6%減となりました。これは売上高自体の減少というよりは、下期における為替の円高が大きく影響しました。

医薬分野では、欧州・医薬品メーカーのマーケットで、当社のヨウ素関連製品が順調に売上高を伸ばしました。欧州では臭素系メーカーが多

く、当社とは競合関係になりますが、ヨウ素系では日本は世界の一大生産国で、当社は技術力、品質保証の面でも高い評価を得ています。欧州医薬品メーカーの基礎原料や中間体として当社製品の採用が増加し、ニーズが高まっていますので、今後の業績拡大が期待されます。

電子材料分野では、ディスプレイ用の有機EL材料などの売上高が伸び悩みました。2016年3月に中国・上海市に現地法人を設立しましたので、これを拠点として、今後はディスプレイ用有機ELの世界市場に直接アプローチできる体制となりました。当社の高い技術力と品質保証は世界市場でインパクトがあり、販売拡大が期待できます。

Q3 難燃剤事業の状況はいかがでしたか。

A 難燃剤事業は売上高で前期比0.5%減となりました。ここ数年、臭素系難燃剤の国内市場は底を打ったと見られ、業界全体の売上高は横ばいとなっています。ただその内訳を見ますと、新機能を持った品目に入れ替わっていたり、新素材が登場していたりと変化もあります。また、一部の臭素系難燃剤は環境負荷の問題から国際的に使用停止の方向に動いています。

近年、臭素系難燃剤の市場は変化が見られるので、これをチャンスと捉え、当社では、前期から従来のモノマー型臭素系難燃剤の代替製品として、環境にやさしいと言われるポリマー型臭素系難燃剤の開発にも取り組んでいます。

Q4 ヘルスサポート事業の状況はいかがでしたか。

A ヘルスサポート事業全体では、売上高で前期比16.3%減となりました。

ヘルスサポート事業の柱となる透析薬剤は、当社製品が液体であるのに対して、輸送コストや操作性などの点から、医療現場では固形剤への置換えが進んでいます。当社は固形化技術の開発を急ぎ、市場への営業力強化に注力しています。

また、環境・健康関連製品では、ウイルス抗菌効果が高く物体に固定化できる「Etak(イータック)」の優れた性能が広く認知され、国内の繊維関係企業や医療分野、海外ではマレーシアの手術用手袋メーカーにも採用されました。

Q5 2015年3月に発表された組織変更の狙いと成果についてお聞かせください。

A 2015年3月に事業部制から事業グループ制への組織変更を発表し、当期は期初から新体制でスタートいたしました。これは当社の事業性に更なるスピード感をもち、研究開発や製品作りが市場において技術面、品質面で非常に強みを発揮します。今後も世界市場で求められる価値ある製品を生み出していくための環境作りの強化を図りました。

具体的には、各グループに権限委譲して直接運営にあたり社員の自由な発想や現場の取組みを形にしやすくし、利益管理と評価を明確にしました。

組織変更により社員が活性化し、
新たな技術や製品開発につながっています。

技術開発力に加え営業力を強化し、次期目標値達成を目指してまいります。

この組織変更の成果は大きく、社員一人ひとりが非常に高い次元から、また多様な方向から取組みを実現するようになってきました。その結果、新たな技術や製品についても着々と成果が出ており、世界市場への取組みも積極的に推進し始めたところです。

Q6 中国現地法人設立の狙いとグローバル戦略についてお聞かせください。

A 2016年3月に中国・上海市に当社の100%出資による現地法人「マナック(上海)貿易有限公司」を設立し、今後、上海を中心に中国、アジア地域の市場開拓に注力いたします。

中国経済の景気減速が言われておりますが、依然として日系企業の中国進出は続いておりますし、現地の製薬企業や電子材料企業が技術力を持って製造を始めていますので、当社にとってもビッグマーケットです。また当社の技術力、品質保証、供給体制は中国市場において強みとなりますので、この現地法人設立を機に、現地事情に合わせた営業開拓を行ってまいります。

Q7 来期の取組みや目標についてお聞かせください。

A 当社は研究開発型で、独自の技術力をいかし、ニッチマーケットを積極的に開拓することで成長してきました。しかしニッチな市場というのは、一定のシェアを獲得してしまうとそれ以上には市場が広がりません。これは当社の転換点と言えるでしょう。ある分野を深掘り研究開発を極めてモノづくりするだけでなく、研究開発の周辺分野を大胆に広げていく視点が必要とされているのです。

そこで来期には、研究開発に加えて営業力の強化に注力いたします。営業分野の人材を社内でも育成するだけでなく、外部

からスペシャリストを獲得することも必要ですし、当社製品のメリットを理解して採用いただける企業様とのお取引や、M&Aも含めて当社とのシナジーが生まれる協業先様との出会いも、積極的に求めていきます。

こうした取組みを着実に実行し、来期は、売上高で当期比110%の96億円を目標といたします。

Q8 最後に株主様へのメッセージをお願いします。

A 当社では、長年にわたり堅実な経営と安定配当方針を貫き、株主様のご支援にお応えしてまいりました。当期は業績が予想を下回りましたが、期末配当金は1株当たり5円とさせていただきます。

来期も目標値達成へ向け業績を伸長させ、財務体質を強化して、投資家の皆様に関心を寄せていただける価値ある企業として、株主様へのより一層の利益還元を努めてまいります。

今後も当社の技術力や優位性を十分に発揮して事業活動に邁進してまいりますので、株主様には、さらなるご支援を賜りますよう、よろしくお申し上げます。



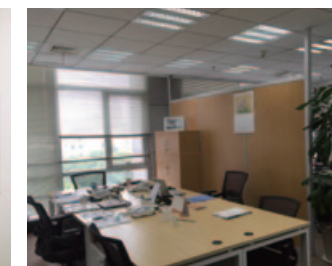
上海市に現地法人「マナック(上海)貿易有限公司」を設立しました。

当社は、中国をはじめとするアジア地域におけるグループの事業拡大を目的として、中国の上海市に現地法人を設立いたしました。

上海を拠点として、海外における受注活動の強化、サプライチェーンの最適化を図るとともに社内外との連携を強め、グローバルな事業展開を推進してまいります。



商号	マナック(上海)貿易有限公司
本店所在地	中国 上海市
代表者の役職・氏名	董事長 大村 元宏
事業内容	中国国内における輸出入業務
資本金	350万人民元
設立年月日	2016年3月16日
大株主及び持株比率	マナック株式会社 100%



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 2016年3月31日現在	前 期 2015年3月31日現在
資産の部		
流動資産	7,449	7,502
現金及び預金	2,255	2,322
受取手形及び売掛金	2,881	2,800
有価証券	63	276
商品及び製品	1,138	989
仕掛品	503	486
原材料及び貯蔵品	413	415
繰延税金資産	97	73
その他	97	139
貸倒引当金	△ 2	△ 2
固定資産	4,760	5,005
有形固定資産	2,419	2,395
建物及び構築物	868	910
機械装置及び運搬具	626	578
土地	743	743
建設仮勘定	49	31
その他	130	130
無形固定資産	2	2
投資その他資産	2,338	2,608
投資有価証券	2,030	2,303
長期貸付金	107	108
その他	201	196
貸倒引当金	△ 0	△ 0
資産合計	12,209	12,508

	当 期 2016年3月31日現在	前 期 2015年3月31日現在
負債の部		
流動負債	2,856	2,672
買掛金	1,053	1,077
短期借入金	1,116	927
未払法人税等	14	61
賞与引当金	116	118
その他	555	487
固定負債	503	830
長期借入金	308	506
繰延税金負債	73	164
役員退職慰労引当金	54	54
その他	65	104
負債合計	3,360	3,503
純資産の部		
株主資本	8,513	8,397
資本金	1,757	1,757
資本剰余金	1,947	1,947
利益剰余金	5,051	4,936
自己株式	△ 244	△ 244
その他の包括利益累計額	336	607
その他有価証券評価差額金	194	402
繰延ヘッジ損益	△ 9	-
為替換算調整勘定	151	205
純資産合計	8,849	9,005
負債純資産合計	12,209	12,508

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2015年4月 1 日から 2016年3月31日まで	前 期 2014年4月 1 日から 2015年3月31日まで
売上高	8,762	9,511
売上原価	6,985	7,997
販売費及び一般管理費	1,490	1,535
営業利益又は営業損失(△)	286	△ 21
営業外収益	156	188
営業外費用	228	26
経常利益	213	140
特別利益	7	29
特別損失	31	334
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	190	△ 164
法人税、住民税及び事業税	19	79
法人税等調整額	△ 5	46
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	175	△ 290

配当関連情報

●当社の株主還元方針

利益配分につきましては、長期的観点から事業収益の拡大と株主資本利益率の向上を図るとともに、自己資本の充実と財務体質強化、株主の皆様への長期的、安定的な配当水準の維持に努めながら、配当額を決定していく予定です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

●第71期の配当金

第71期の期末配当金につきましては、1株当たり5円とすることに決定いたしました。これにより、第71期の年間配当金は、中間配当金2円50銭を加え、7円50銭となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

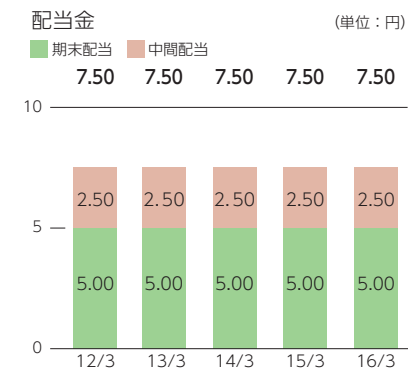
	当 期 2015年4月 1 日から 2016年3月31日まで	前 期 2014年4月 1 日から 2015年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	226	149
投資活動によるキャッシュ・フロー	257	200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	△ 88
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 32	33
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	382	295
現金及び現金同等物の期首残高	1,715	1,419
現金及び現金同等物の期末残高	2,097	1,715

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるCFは226百万円の獲得となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が増加したことによるものです。

投資活動によるCFは257百万円の獲得となりました。これは主に、投資有価証券の売却によるものです。

財務活動によるCFは69百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払によるものです。



株式の状況 (2016年3月31日現在)

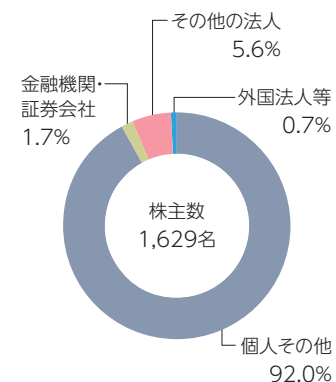
発行可能株式総数	23,200,000株
発行済株式総数	8,625,000株
株主数	1,629名

大株主(上位10名)

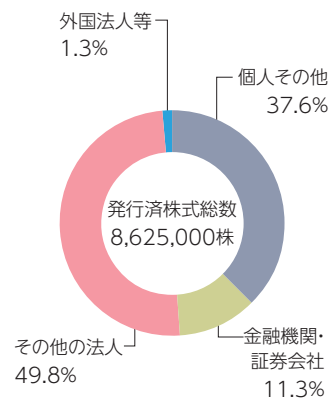
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	1,608	20.0
一般財団法人松永財団	916	11.4
三菱製紙販売株式会社	607	7.6
株式会社広島銀行	322	4.0
マナック社員持株会	286	3.6
杉之原 祥二	254	3.2
株式会社合同資源	200	2.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	139	1.7
光和物産株式会社	121	1.5
中尾薬品株式会社	101	1.3

(注) 1. 上記のほか、当社保有の自己株式が591千株あります。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主数別分布状況



株式数別分布状況



会社概要 (2016年3月31日現在)

社名	マナック株式会社 MANAC INCORPORATED
本社所在地	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
設立	1948年(昭和23年)5月
資本金	17億5,750万円
従業員数	180名(グループ従業員数 309名)
事業内容	難燃剤、医薬品、食品添加物、写真感光材料、高機能性材料、電子材料、染料、香料など様々な分野の先端技術産業に原材料を供給

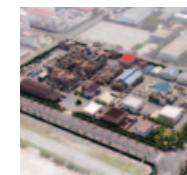
役員 (2016年6月27日現在)

代表取締役社長	杉之原 祥二
代表取締役専務	小林 和正
専務取締役	村田 耕也
常務取締役	千種 琢也
取締役	北村 彰秀
取締役	西山 孝史
取締役	内山 佳之
取締役(監査等委員)	内海 康仁
取締役(監査等委員)	石井 潔
取締役(監査等委員)	本田 祐二

(注) 取締役 内山佳之氏、内海康仁氏及び本田祐二氏は、社外取締役であります。

主な事業所

本社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-957-4370
東京支社	〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8番4号 日本橋さくら通りビル6階 TEL: 03-3242-2561 FAX: 03-3242-2564
大阪営業所	〒541-0041 大阪市中央区北浜3丁目5番22号 オリックス淀屋橋ビル3階 TEL: 06-6227-5988 FAX: 06-6227-5978
福山工場	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地 TEL: 084-954-3330 FAX: 084-953-8523
郷分事業所	〒720-0093 広島県福山市郷分町950番地の1 TEL: 084-951-2501 FAX: 084-951-2502



子会社

社名	マナック(上海)貿易有限公司(中国・上海市)
本店	中国(上海市)中山西路999号 華聞国際大廈502A室
事業内容	中国国内における輸出入業務
社名	八幸通商株式会社 [100%出資子会社で南京八幸業業科技有限公司(中国・南京市)も連結子会社としております。]
	
本社	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2丁目7番6号 晴花ビル3階
事業内容	化学薬品の製造、販売
社名	エムシーサービス株式会社
本社	〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地
事業内容	倉庫賃貸、倉庫業務の受託
社名	ヨード・ファインケム株式会社
本社	〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目12番6号 東信商事ビル7階
事業内容	ヨード化合物の製造、販売

関連会社